

Monthly Report

Vol.151 / 2018 .NOV

スポーツ庁 鈴木大地長官が本学を訪問



各施設での様子

11月12日（月）スポーツ庁鈴木大地長官が来学され、オリンピックを目指す学生など激励されたあと、本学の教育施設を視察されました。

始めに、遠藤学長から本学での48に及ぶ部活動や日本版NCAAモデル校としての大学スポーツ振興への取り組み、地域での健康運動の展開、東京五輪に向けてベラルーシ新体操チームのホストタウン事業の推進などについて説明、次いで朴澤理事長・学事顧問から東日本大震災で被災し、太陽光発電システムを取り入れて復興した復興記念プールやユニークな利用の仕方を導入した部活動のクラブハウスなど、施設紹介が行われました。また、元サッカー日本代表の平山相太さん（体育学科1年）、デフリンピック・水泳 銀メダリストの星泰雅さん（体育学科2年）、デフリンピック・陸上 金メダリストの佐々木琢磨新助手のそれぞれ自己紹介があり、鈴木大地長官は「この大学のシンボリックとなる選手、今後もみんなの憧れる選手であって欲しい」と激励されました。その後、震災復興記念プールやトレーニングルーム、アスレティックトレーニングルームを視察されました。最後に全国の大学で本学のみ整備されているプッシュトラックで2人乗りボブスレーに試乗されるなど体育大学ならではの施設を見学されました。

視察を終えられた鈴木大地長官から、「仙台大学は地域のスポーツの核となる大学。選手の強化や学生の教育、地域貢献に密着などこれからの大学を先取りしていて、素晴らしい」とのお言葉をいただきました。

その後、鈴木長官は本学が主催する「第14回スポーツシンポジウム」でのご講演のため仙台へ向かわれました。

目次

・スポーツ庁 鈴木大地 長官が本学を訪問	1
・「第14回スポーツシンポジウム」を開催しました	2
・「健康タウシバプロジェクト2018」開講式を開催 ・スポーツ情報マスメディア学科3年の山崎雄太さん所属チームがJSAA Analytics Challenge Cupで優秀賞を受賞	3
・第2回「楽天生命パーク宮城」スポーツ施設見学会 ・「留学生ウェルカムパーティー」を開催しました	4
・駐日ベラルーシ特命全権大使ルサン・イエシン氏が来学されました ・蔵王町より朴澤理事長・学事顧問が表彰されました ・元サッカー日本代表平山相太さんの船岡中学校での講演	5
・スポーツ情報マスメディア学科：スポーツ情報戦略実習を実施 ・健康づくり運動サポーター事業上級実習を実施しました	6
・楽天イーグルス・アカデミーコーチが講義を行いました ・仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲームを開催 ・スポーツ局開局記念サッカー対抗戦開催しました	7
・Maui Invitational視察報告	8
・第11期卒業生「還暦同期会」開催～島根県から北海道まで43名が参会 大いに旧交を温める～ ・硬式野球部による学童野球交流会を開催 ・楽天イーグルス管理栄養士の講義を行いました	
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.8	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

「第14回スポーツシンポジウム」を開催しました

<スポーツリレートーク>



11月12日（月）18：00～20：30、仙台市・せんだいメディアテーク1Fオープンスクエアを会場として、仙台市・河北新報社・仙台大学の共催及びスポーツコミッションせんだいの協力により「第14回スポーツシンポジウム」が開催され、約250名の方々が聴講されました。

今回のテーマは『スポーツの持つ力とスポーツのある街仙台を考える～市民・ボランティアの力がささえるスポーツ～』であり、基調講演、スポーツリレートークによる各講演者の講演が行われました。



初めに、基調講演として、「スポーツが持つ力と地域活性化」をテーマに、鈴木大地スポーツ庁長官からの講演が行われ、スポーツは感動を与えるだけでなく、地域へ社会的効果・経済効果を創出し、スポーツによる持続的なまちづくりが地域活性化に繋がって行くことの大切さを強調され、スポーツによるまちづくり・地域活性化の推進のためには地元自治体や大学、企業などをつくる「地域スポーツコミッション」の拡大の必要性の呼び掛けがありました。



次に、基調講演を受けて、三名の講演者によるスポーツリレートークが行われ、スポーツの持つ力や地域活性への広がり、各地域でのスポーツへの独自の取り組み、スポーツをささえる市民ボランティア活動の現状と実例をもとに考察報告がなされました。



「海よ、ノーサイドだ。私たちは未来だ」
岩崎昭子氏 浜への料理宿来館女将/一般社団法人根浜MIND代表理事
東日本大震災からの復興の目標の一つ、2019年ラグビーワールドカップ招致を実現した釜石市。開催に至る想いと釜石とラグビーの関わり、特にラグビーの聖地としての釜石を世界に知ってもらいたいと期待感を語りました。



「スポーツで勇気と笑顔の共有」
石田卓士氏 新潟県立中央病院内科部長/新潟大学医学部臨床准教授/医学博士
病院の子どもたちにスポーツ観戦をとの思いから始めた病院ビューイングは医療関係者、クラブ、サポーター、ボランティアの連携で大きく広がっており、その経緯と成果についての事例報告を話されました。



「スポーツを通じて『する・みる・ささえあう』まちへ」
泉田和雄氏 市民スポーツボランティアSV2004代表理事
日本有数のスポーツボランティアのまち・地域となった仙台・宮城、その要因と活動のこれまでとこれから、「支え合う」ことから生まれる可能性について、地域の取り組み事例を含めて語りました。
最後に、池田敦司教授がスポーツの持つ力と街に及ぼす影響をもとに、スポーツのある街づくりを進めていくために、「ささえるスポーツ」という関わり方もあることを強調しリレートークのまとめが行われました。
次年度以降においても、産官学共催という本シンポジウム開催の趣旨を大局的な観点から捉えて、より一層発展させていく取り組みが大切となります。
<報告：学術会>

「健康タウンしばたプロジェクト2018」開講式を開催

10月30日（火）仙台大学LC棟で「健康タウンしばたプロジェクト2018」の開講式を開催いたしました。「健康タウンしばたプロジェクト2018」はスポーツ庁の補助事業として柴田町が採択され、本学に委託を受けた事業になります。本事業は、運動やスポーツに関心がない方、関心はあるが参加したことが無い住民を対象に気軽に参加できる環境を整え、運動を始めるきっかけづくりや運動の継続を促すものです。「心浮き浮き」をテーマに①「健康運動・スポーツ促進教室」と②「ノルディックウォーキング」の2つのプログラムを実施します。

開講式では、柴田町滝口茂町長より「健康に関心を持つ町民が増え、運動実施率が現在の41%から50%に高まり、健康タウンを宣言したい」とご挨拶をいただきました。遠藤保雄学長が「大切なことは楽しみながら気軽に、心浮き浮きして運動に取り組むことです」と述べました。出席された柴田町民約50名の方々へ、小池和幸教授と高崎義輝教授からこれから始める2つのプログラムについて内容をお伝えし、健康体操やニュースポーツ・ノルディックウォーキングなど様々な体験をしていただきました。1人ではなかなか運動をできない方も、複数と一緒に運動することで楽しさや達成感を共有することができたためか、笑顔が絶えない時間となりました。今回出席していただいた方の中から、各プログラムに対しての質問や申し込みもあり、積極的な姿勢が伺えました。

「健康タウンしばた」の各プログラムを実施するにあたり、健康づくり運動サポーターをはじめ、学生も参加しております。住民の方々と会話などの関わりから楽しい時間を共有し、「運動は楽しい」「続けてみようかな」と感じてもらえるようサポートや運動指導もおこないます。

体育系大学としての専門的な知識や技術を活用し、これからも柴田町民の運動実施率が向上し健康な町づくりに発展できるよう尽力して参ります。

<報告：松浦里紗新助手>



スポーツ情報マスメディア学科3年の山崎雄太さん所属チームがJSAA Analytics Challenge Cupで優秀賞を受賞

JSAA Analytics Challenge Cup（主催：日本スポーツアナリスト協会）本戦において、スポーツ情報マスメディア学科3年 山崎雄太さん<弥栄高校（神奈川県）出身>の所属するチームが優秀賞を受賞しました。本戦はエントリーした42チームのうち審査を通過した10チームが出場し、11月3日（土）から1泊2日の合宿形式で開催されました。出場チームはJリーグクラブの観客数増加施策の提言を目的として、初日に日産スタジアムでフィールドワークを実施。2日目のプレゼンテーションで山崎さんのチームは、大学生をターゲットとした集客施策を提案しました。大会を終えて山崎さんは「今回のイベントを通して他のグループからも学ぶことが多く、とても貴重な経験になった」と、充実した表情で2日間の取り組みを語りました。

<スポーツ情報マスメディア学科>



スポーツ情報マスメディア学科3年 山崎雄太さん
<弥栄高校（神奈川県）出身>

第2回「楽天生命パーク宮城」スポーツ施設見学会



グラウンドの上で記念撮影（向かって左端が川田ボールパーク本部長）



草刈り機説明の様子

10月27日（土）に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として第2回スポーツ施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性及び自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来、しかもスポーツ施設が安全に保たれる管理手法を身に付けられるように構成されております。県内にあるスポーツ施設【グランディ・21、ユアテックスタジアム、表蔵王国際ゴルフ倶楽部、泉パークタウンゴルフ倶楽部、楽天生命パーク宮城など】を実際に見学して実務経験の不足を補いながら知識習得を促進するものであります。

今春に仙台大学と楽天野球団との間で締結した（担当：池田敦司 I R 部長）アカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は2回目の開催となりました。担当の小島文雄非常勤講師（兼体育施設管理コンサルタント）の引率の下14名（前は60名参加）の学生が参加いたしました。

はじめに、株式会社楽天野球団ボールパーク本部長 川田 喜則 氏より楽天野球団の経営戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、実際に使用しているグラウンドの天然芝生の生育状態を観察したり、グラウンド整備の機械を視察したり、見聞を広めました。

参加した学生からは「サブエアシステム等沢山の事を学ぶことが出来て大変良い経験になった」、「普段見る事が出来ない天然芝生管理施設やシステムを学ぶことが出来て貴重な体験が良かった」、「連鎖的に満席になるように少しずつ施設の規模を拡大したり、工夫を凝らした施設を企画したりしている経営戦略を聞き知識も増えて有意義な時間を過ごすことが出来た」などと感謝の声がアンケートに記載されていました。

<報告：小島文雄 体育施設コンサルタント>

「留学生ウェルカムパーティー」を開催しました



速藤保雄学長の挨拶



留学生と交流を深める様子

後期より、台湾・台東大学5名、韓国・龍仁大学校4名、中国・瀋陽師範大学2名、中国・上海体育学院2名、タイ・シーナカリンウィロート大学2名の留学生を新たに本学に迎えたことから、10月31日（水）に学生食堂なちゅらで「留学生ウェルカムパーティー」を開催しました。パーティーには、教職員や学生も多数参加し、交流を深めました。また、参加した留学生等からさまざまなパフォーマンスが披露され、会場が大いに盛り上がりました。

<国際交流センター>

駐日ベラルーシ特命全権大使ルスラン・イエシン氏が来学されました



記念写真



剣道場の見学時

11月8日（木）駐日ベラルーシ特命全権大使ルスラン・イエシン氏が来学されました。初めにLC棟で、今年の7月30日に第5体育館で行われたベラルーシ新体操ナショナルチームの公開演技会や昨年行われた開学50周年記念式典の様子を観ながら、運動栄養学科の学生が考案した東北6県弁当に舌鼓を打ちつつ、昼食後は25記念館の栄養管理システムやC棟3階の人工気象室と低酸素環境室、第3体育館のトレーニングセンター及び剣道場、第4体育館のATルームなど、本学の整った施設をご見学頂き、有意義な一日となりました。

イエシン氏はベラルーシ国立体育スポーツ学院と2002年以来、新体操を通じて国際交流を続けてきた仙台大学について理解を深められ、2020年のオリンピックにむけてのホストタウン交流の重要性を再確認し帰途に着されました。

蔵王町より朴澤理事長・学事顧問が表彰されました

11月9日（金）蔵王町古里文化会館にて、今年の7月に蔵王町招へいのパラオ共和国女子柔道オリンピック強化選手のキーシャ・トゥーロップ選手が本学で強化合宿を行い、指導等に協力するなど、スポーツ振興に貢献された為、蔵王町より篤行者に対する感謝状が贈呈され朴澤理事長・学事顧問が表彰されました。



元サッカー日本代表平山相太さんの船岡中学校での講演

11月12日（月）柴田町立船岡中学校にて、元サッカー日本代表平山相太さん（体育学科1年）が全校生徒約450名の前で「七転び八起き」と題して講話を行いました。

平山さんは「ですます調での話し方では距離があるので普段通りに話をします」と始め、自分の生い立ちやサッカーを始めたきっかけ、小学校からプロサッカー選手を終えるまで良かったことも辛いこともたくさんあり、その経験の中で「自分に自信を持ってあきらめず信じるのが大切」ということを講話の中で伝え、平山さんにとってのサッカーという存在について話をしました。

最後には、生徒たちに「自分を好きになって、自分の好きなことを周りから何を言われても、100%でやってほしい。自分の人生は自分のもの。自分の人生を自分で楽しんで日々を過ごしてほしい」というメッセージを残し、講話は終了しました。

その後、行われた質疑応答の時間では、平山さんが生徒たちと友達のように話す様子が笑顔が溢れ、大きな賑わいを見せていました。

今回の講話で、今を一生懸命生きている生徒たちにとって、将来を考える大きなきっかけとなりました。

<教職支援室>



講演中の様子

スポーツ情報マスメディア学科：スポーツ情報戦略実習を実施

スポーツ情報マスメディア学科2年生を対象に開講している「スポーツ情報戦略論実習Ⅰ」。本年度も全日本バレーボール高等学校選手権大会 宮城県代表決定戦の期間中（10月25日（木）～27日（土））に、宮城県総合運動公園施設（宮城県利府町）で2泊3日の実習を実施しました。本実習は、スポーツ情報戦略活動を実践的に経験することを目的としています。

この授業は、「競技フィールド系」と「地域スポーツ・政策支援系」の2グループに分かれて活動します。競技フィールド系はデータバレーを用いて全試合のデータを収集し、地域スポーツ・政策支援系は現場で取材および撮影した情報を基にニュースライター発行と映像の放映を行いました。実習を終えて現在は、テクニカルレポートと次回大会に向けた提案書の作成に取り組んでいます。

<スポーツ情報マスメディア学科>



「地域スポーツ・政策支援系」



「競技フィールド系」

健康づくり運動サポーター事業上級実習を実施しました

健康づくり運動サポーター事業は、運動指導者を養成するプログラムで学内独自の認定資格であり、取得には養成講座終了後、初級は体験実習、中級は指導実習、上級は地域のイベントを企画・運営・管理する実習をおこないます。今回は健康づくり運動サポーター上級実習として、本学の学生4名がイベントの計画から実施までをおこないました。

10月21日（日）に船岡生涯学習センターで、柴田町第12A区行政区民を対象とした「第4回 健康まつり2018」を開催しました。“健幸の花を咲かせよう”をコンセプトに子どもから高齢者まで幅広い年齢層が健康について学び、地域交流や学生交流を通し笑顔を咲かせるまつりにすることを目的に実施し、健康まつり2018を担当したリーダーの四日市綾香さん（運動栄養学科4年）は、「実習を通して自分自身のレベルアップにつながりました」、忠鉢礼菜さん（大学院2年）は、「学生生活で滅多にできる経験ではなく、自分の将来に繋がるとても良い機会でした」と話してくれました。



12A区 集合写真

11月4日（日）は槻木体育館で、柴田町第16区行政区民を対象とした「第9回 秋の健康収穫祭 みんなこっちさ、ございん〜」を開催しました。自分のからだについて学び、楽しみながら健康づくりを継続し、世代間交流を通して地域の絆を深めることを目的に実施しました。秋の健康収穫祭を担当したリーダーの鈴木萌子さん（健康福祉学科4年）は「イベントを成功させるためには、地域の方や大学関係者の団結が大切だと感じました」、引地あゆみさん（健康福祉学科4年）は「企画を運営するにあたり準備の大切さを学び自分自身の成長に繋がりました」と話してくれました。



16区 活動の様子

両イベント運営は、区長はじめ各行政区役員、柴田町福祉課、柴田町地域包括支援センター、槻木包括支援センター、小池和幸教授、松浦、田中、蘇の各スタッフ、健康づくり運動サポーターの学生合計31名によって行われ、大きなケガや体調を崩す方も出ず、たくさんの笑顔に溢れ、とても明るい雰囲気で開催することができました。今後も、たくさんの笑顔や笑い声に溢れ、健康について関心の深められるイベント運営ができるよう、学生のサポートをおこなって参ります。

<報告：田中 亨新助手>

楽天イーグルス・アカデミーコーチが講義を行いました

平成30年度集中授業「スポーツ指導の基礎」（担当：武石健哉准教授）において、11月23日（金）本学OBである東北楽天ゴールデンイーグルス・アカデミーコーチ坂下達徳さんに講義をいただきました。

坂下コーチは平成18年体育学部体育学科卒業、在学中は硬式野球部で副キャプテンを務めています。

ミッション、ブランドや指導・コーチングの現場における重要な視点、後輩である仙台大学の学生が社会に出るにあたって先輩として注意しておきたいこと等ご自身の経験に基づく知見に関して、熱く講義をしていただきました。

受講した学生からは、「現場で実際に指導している方のお話が聞けて貴重な経験でした」「原理原則が重要なことが分かりました」といった声があがっておりました。



本学OBである東北楽天ゴールデンイーグルス・アカデミーコーチ坂下達徳さん

仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲームを開催

11月25日（日）「仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲーム」仙台89ERS vs 愛媛オレンジバイキングスの試合がゼビオアリーナ仙台で開催されました。

仙台大学ブースでは、本学マスコットキャラクターの「エスユーウォー」が来場者をお迎えし、学生によるキーホルダーの配布や写真撮影など大盛況となりました。

仙台89ERSチア・体育学科のKANAEさんによるTip Offセレモニーによってスタートし、ハーフタイムには、新体操競技部による美しい演技で観客を魅了しました。

試合は1ゴールを争う白熱したゲームとなり、大きな歓声のなか仙台89ERSが74対72で勝利し、試合後に行われたMVP賞表彰では、運動栄養学科4年・新体操競技部の高橋葵さんがプレゼンターとなり、仙台89ERSの阿部潤選手に本学が様々な健康効果に関する実証研究を行っているアイリスオーヤマ社製の「体幹ストレッチコアトレーナー」がプレゼントされました。

今後も仙台89ERSとの連携をさらに深め、スポーツ栄養やスポーツ情報分析、スポーツコーチングなど多岐にわたる分野で、プロの現場での実践的な学習や人材育成、チームや選手の補助の機会を提供して参ります。

<報告：事業戦略室>



記念写真

スポーツ局開局記念サッカー対抗戦開催しました

11月18日（日）、仙台大学のスポーツ局開設を記念して、11:00から仙台大学サッカー場にて仙台大学男子サッカー部対東北大学の対抗戦、15:00からは仙台大学女子サッカー部対常盤木学園高校との試合を開催しました。

◇試合結果

仙台大学男子サッカー部6-0東北大学

仙台大学女子サッカー部2-3常盤木学園高校

この試合はスポーツ局開設記念試合として、選手は地元の子供たちによるエスコートキッズとともに入場、ハーフタイムには、仙台大学新体操競技部やチアリーディング部の演技披露、サッカー部有志によるアトラクションを行い試合を盛り上げ、2試合合計で384名の観客の方から熱い声援をいただきました。

また、試合をインターネットにてライブ配信を行い、1,800PVと多くの方々にご覧いただきました。

今回ご協力いただきました東北大学・常盤木学園高校の皆様、ありがとうございました。



Maui Invitational視察報告

「ワー！」という大きな歓声がハワイ州マウイ島にあるおよそ2,500人収容の小さなアリーナ、Lahaina Civic Centerに響き渡る。その大歓声のもとにいたのは、Gonzaga大学男子バスケットボールチーム選手とチームスタッフ一同であった。

去る11月19日から21日までの3日間、アメリカ合衆国ではThanksgiving week（収穫祭）にあたる週に、Maui Invitationalと呼ばれるカレッジバスケットボールトーナメントが開催され、朴澤理事長・学事顧問と高橋が視察した。そのトーナメントは、ハワイ州ホノルルにあるNCAA Division IIのChaminade大学がホスト校として1984年よりおこなっている歴史の深い大会である。また、ESPNという全米でも1・2を争う大規模なスポーツテレビ局が放映権を持っており、アメリカ全土で放映されている。ハワイ州のローカルスポンサーも多くついでおり、この大会の運営をサポートしている。アリーナ周辺では、多くの大会グッズ（Tシャツ、ショーツ、バッグ、サインボールなど）を販売しており、それらは即完売という人気ぶりで、バスケットボールシーズンが始まってすぐの11月下旬に開催されるトーナメントとして全米で“the best in-season tournament in the country”と言わしめる大会となっている。観戦チケットも入手困難で、チケット販売開始時は\$100~200で販売されていたチケットが、大会が始まる直前になるとプレミアが付き、その値段が\$1,000近くまで跳ね上がるという話を聞くほどである。34年間という長い間大会を運営し続けられる理由は、その大会の人気と多くの収益にあるのだろう。

2018-2019シーズンの今大会は、Arizona大学、Auburn大学、Duke大学、Gonzaga大学、Illinois大学、Iowa State大学、San Diego State大学、Xavier大学の全米でもトップクラスの8チーム（アルファベット順）が参加し、Gonzaga大学が決勝戦で強豪校Duke大学を撃破し、優勝を飾った。大会中の熱戦とその盛り上がりは、想像をはるかに超える興奮を観客に与え、全米でも話題沸騰の大会となっていた。そして、その大会を通してMVP選手に選ばれたのが、明成高校卒業後、遠く日本を離れ、米大学への留学を決意して3シーズン目となる八村塁であった。Gonzaga大学に所属する八村のその存在感とチームへの影響力は、目を見張るものがあり、とても誇らしかった。彼のワンプレーワンプレーには、常に魂が籠っていた。大会終了後に八村本人に話を聞いてみたところ、「まさか自分がMVPを取ることができるとは全く期待しておらず、自分の名前が呼ばれたときはなぜ呼ばれたのか最初は把握できなかったです。MVPを取れたことはとても嬉しいことだけど、でもこれはチーム全体で勝ち取ったMVPで自分の力だけではないです。自分はチームメイトやスタッフにとっても恵まれています。」と語っていた。Gonzaga大学に入学して3シーズン目となる今シーズン。八村は、チームと共に全米大学バスケットボールの頂点を目指し、またその先の自らの未来を切り開くべく、今シーズンに全精力を注ぐ意気込みが感じられた。今後の彼の成長と活躍を期待し、みんなから愛される選手になるよう応援を続けていきたい。

<報告：高橋 陽介講師>

主な情報源：公式ウェブサイト <http://mauiinvitational.com>



第11期卒業生「還暦同期会」開催 ～島根県から北海道まで43名が参会 大いに旧交を温める～

仙台大学卒業第11期生の還暦同期会が11月24日（土）に43名の出席の下、盛大に開催されました

この会は、還暦という人生の節目を機に卒業生が一同に会し懐かしい友や恩師と再会し、お互いの近況を語り合い旧交を温めることなどを目的として、第8期生の同期会から始まり今回で4回目の開催となりました。当日は14:00に大学に集合し、まずは38年ぶりの再会を懐かしみ自己紹介をした後、事務局員の説明を受けながらの施設設備の見学。当時から現存の第1、第2体育館、応援練習での伝説のC棟3階の階段教室に当時に想起し、震災後復興された屋内プール、第3・第5体育館の最新のトレーニング施設や体育館、陸上トラック等大きく発展した母校に驚嘆と羨望の思いをいただきました。

16:00からは船岡駅前のホテルに会場を移しての懇親会。同期生35名に朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長はじめ来賓、恩師等8名の計43名の参加者で開催されました。久しぶりに再会した部活動仲間や友人、恩師との話に盛り上がりステージ上での自己紹介で出る当時のエピソードに笑い拍手が起こるなど時間たっぷり旧交を温めました。最後に校歌を声高らかに歌い、参加者代表のエールで会を締めお開きとなりました。その後、近くの居酒屋へ総移動しての二次会も、苦楽を共にした仲間との語らいは尽きることがありませんでした。

<報告：同窓会事務局>



硬式野球部による学童野球交流会を開催

11月24日（土）、柴田球場にて柴田町内・隣接町の学童野球チームや野球の大好きな子供達、約120名を対象に本学の硬式野球部が野球交流教室を開催しました。

学童野球交流会は、野球に親しみ、野球ができる喜びを実感して欲しいという地域貢献を目的として行われ、ボールの取り方やバッティングの打ち方はもちろん、ボールやバットの握り方といった基礎から丁寧に指導しました。

参加した子供達も、「お兄ちゃんたちみたいになりたい」「初めて体験したポジションも楽しかった」など目を輝かせていました。

<報告：硬式野球部>



学生が指導を行う様子

楽天イーグルス管理栄養士の講義を行いました

11月30日（金）「キャリアプランニングⅠ」の授業において、東北楽天ゴールデンイーグルスの長坂聡子氏に来学いただき、運動栄養学科1年生を対象に講義をいただきました。

長坂聡子氏は、東北楽天ゴールデンイーグルス チーム統括本部コンディショニング部に所属、管理栄養士・公認スポーツ栄養士の資格を持ち、全選手の栄養サポートを担当されています。

講義においては、ご自身が栄養士を目指したきっかけや、どのようにして専門技術を身に付けていったか、そしてプロ野球のみならず、フェンシングや陸上競技など様々な競技のアスリートの栄養サポートをした経験を伝えていただきました。特に、そのキャリアの中で培った「栄養サポートを行う上で重要なこと」については、聴講した学生も熱心にメモを取っていました。

聴講した学生からは「アスリートを支えている栄養サポートの仕事がハッキリと分かった」「自分も管理栄養士を目指しているのだから、今から何を身に付けていけば良いのかが良く分かった」といった感想があがっていました。

<報告：池田敦司教授>



講義の様子

「高校スポーツの安全を守る」Vol.8

今回は、川平ATRによる教育活動について紹介致します。

担当：助手 小野 勇太

先月号でも紹介させていただきましたが、私達はアスレティックトレーナー(AT)として、またはストレングス&コンディショニングコーチ(S&Cコーチ)として、専門分野について教育しています。10月～11月は、特に我々による授業が多い月となり、「テーピング(膝関節)」「上肢・下肢の筋肉と骨」「スポーツ傷害」「トレーニングの基礎」「トレーニング論」「レジスタンストレーニング」「栄養基礎・スポーツ栄養」といった各テーマを題材として展開し、(写真①、②)専門用語だけでは、高校生には理解が困難となりやすい事を踏まえ、講義では、自身の競技に置き換えて考えるアクティブラーニング形式を随所に導入し、楽しみながら専門的知識を学べるように工夫しています。新しい発見や、普段の運動で行っていたことの目的を再認識することは重要です。普段、練習を指導する監督やコーチの方々に加え、我々のような専門家の指導が加わることで、各々の競技の専門性が高まることを期待しています。



①AT授業(膝関節テーピング：実技)



②S&C授業(トレーニング論：講義)

また、川平ATRが対象とする特定研究指定部活動に対して、年4回計画している傷害予防講習会(第3回目)を開催しています。今回のテーマは「感染症と緊急対応について」です。(写真③)

秋冬にかけて、風邪やインフルエンザを始めとした感染症の流行が多い時期となるので、その予防や対策方法に加え今回は「緊急対応」についても触れています。基本的には、各部活動現場に指導者である大人がいる必要がありますが、必ずしも指導者や我々ATがその現場にいるとは限りません。緊急時にどのように行動すべきなのかを再認識するために、この講習会を通して確認しています。高校生が救急法を実践するわけではありませんが、その場にいる学生達がパニックに陥ってしまったりすると、初動が遅れてしまい、緊急時の最悪な結果を招くことがあります。緊急時はいつ、どこで起こるかわかりません。川平ATRでは、「高校スポーツの安全を守る」を念頭に活動していますので、競技力向上は当然重要視していますが、何より「命」に関する点への教育活動を忘れずに今後も教育活動の充実を図っていきます。



③傷害予防講習会(感染症・緊急時の対応について)